

竹川病院

北田 利弘(リハビリテーション部 副主任 / 理学療法士)

功 績 健育会が推進する「教育研修の一環としての学術・研究活動」を高く体现し、日々の臨床およびスポーツ現場での疑問を起点とした研究論文が国際査読付き学術誌に採択された功績。

推薦者氏名 可児 利明

推薦理由 臨床の疑問を起点とした研究論文の国際査読誌採択という学術的功績と、その知見を当会患者様の心理的支援やリハビリの質向上へ還元する熱意を高く評価する為

内 容

当院外来リハビリを担当している理学療法士北田は、普段より回復期退院後の患者さんや多くのアスリートの競技復帰を支援しています。

その取り組みは院内外を問わず積極的に実践しており、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとして女子サッカー選手のサポートにも携わり、臨床とスポーツ現場の双方で豊富な経験を積んでいます。

その北田が筆頭著者として執筆した論文「Factors Associated with Experiencing Posttraumatic Growth after Severe Sports Injury among Female Soccer Players」が、国際査読付き学術誌『International Journal of Sport and Health Science』（Vol.24, 45-52, 2026）に採択されました。本研究は、重度のスポーツ外傷・障害（受傷から復帰まで29日以上）を経験した日本女子サッカーリーグ所属選手を対象に、怪我という困難な経験を通じて得られる「外傷後成長（Posttraumatic Growth; PTG）」に関連する要因を明らかにした横断研究です。

本研究は、現場で「重度な怪我を乗り越え、人間的・アスリートとして成長する選手」を数多く目の当たりにする中で生じた、「成長をもたらす要因は何か」という真摯な臨床的疑問から着手されたものです。筑波大学大学院修士課程で実施した本研究に留まらず、現在は同大学院博士後期課程（スポーツ医学）に在籍し、臨床業務と並行して学術的研鑽を積み続けています。

この知見はスポーツ現場に限らず、健育会グループの各施設においてリハビリテーションに取り組むすべての患者さん・ご利用者さん、及びそのご家族に対する心理的支援の礎となるものであり、理学療法士をはじめとする医療従事者が、対象者の「身体機能の回復」だけでなく「心理的变化や人間的成長」にも着目し、患者さんに寄り添う高品質な支援を実践する上で、極めて高い有用性と波及効果を有しています。

論文という形で、心から患者さんに寄り添う為に自身の知見を上げ、貢献する姿を示した北田を理事長賞に推薦致します。